



竹林の風

いちご一会イメージソング・ダンスを歌って、踊って、楽しもう!



2022年に栃木県で【第77回国民体育大会(愛称:いちご一会とちぎ国体)・第22回全国障害者スポーツ大会(愛称:いちご一会とちぎ大会)】が開催されます。

栃木県としては、県民の皆さんが、国体・大会を「する」「みる」「支える」といった様々な関わりをもつことで、夢と希望を抱き、感動を分かち合うとともに、来県者をおもてなしの心で温かく迎える両大会の実現に向けて、県民運動を展開しているところです。

その県民運動の中に、「いちご一会イメージソング・ダンスを歌って、踊って、楽しもう!」という取組があります。イメージソングとダンスのCD・DVDは、すでに各学校へ配付されています。とちぎ国体・大会への気運を高めたり、県民としての自覚や意識をもたせたり、関心を広げたりする上で活用していただくと幸いです。

活用例では、給食の時間や清掃の時間に流して親しみをもってもらう、体育の授業で準備運動や表現運動・ダンスの学習活動に取り入れる、運動会のダンスとして活用するなどがあります。実際に今年度、河内管内でも小・中学校ともに、運動会のダンスに取り入れた学校がありました。

DVDでは、イージー、スタンダード、シッティングと様々なバージョンが紹介されており、振り付けや楽譜なども同封されています。各学校で活用する際は、ダンスの振り付けやカラー手袋、ポンポン、衣装等を自由にアレンジしたり、振り付けを児童・生徒に考えさせてみたりするのも良いと思います。「いちご一会とちぎ国体 公式ウェブサイト」では、踊ってみた動画を投稿できるようになっています。「2022 とちぎ国体」で検索し、動画をアップしてみるのも楽しむポイントです。



※アレンジした「いちご一会ダンス」を、運動会で踊った時の写真です。
(宇都宮市立姿川第一小学校)

「地域とともにある学校づくり」に向けて

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、子どもや学校が抱える課題の解決や未来を担う子どもの豊かな成長のためには、「**社会総掛かりでの教育の実現**」が求められています。

学校は地域と協働し、地域の教育力を生かしながら学校運営に取り組む「**地域とともにある学校づくり**」を、また、地域は学校と協働することで、地域力が向上する「**学校を核とした地域づくり**」を目指すことが有効とされています。

学校や地域、それぞれが有している強み(教育資源)を互いに生かしあうことで、子どもにとって「生きる力」の育成や地域への愛着の芽生え、社会性の向上、さらには学力向上の基礎づくりにもつながります。地域の大人にとっても、子どもと関わることで学んだ成果を生かす機会や自らの行動を振り返る機会になり、地域の教育力向上が望めるなど、相乗効果が報告されています。

そこで、学校・家庭・地域が相互理解や信頼関係を深めるため、「**地域とともにある学校づくり**」の推進に重要な3要素についてお伝えします。

1 熟議

学校と地域の人々が当事者意識をもって、みんなでよく考え、話し合っていくこと

- (1)多くの当事者(保護者、教職員、地域住民等)が「1つのテーブル」に着いて、課題や情報を共有する。
- (2)熟議により、互いの立場や果たす役割を理解し、それぞれの役割に応じた**解決や方策が洗練され、行動につながる**。

2 協働

同じ目標に向かって、一緒になって活動していくこと

- (1)学校・家庭・地域の**信頼関係**を構築した上で、同じ目的・目標に向かって、**対等な立場**で活動する。
- (2)「**計画→実行→評価→改善**」の**PDCAサイクル**を構築することにより、課題解決に向けた効果的な活動になる。

3 マネジメント

校長の強いリーダーシップのもと学校の組織改革を推進すること

- (1)**校長を中心に**地域や社会の動きを察知し、**人をつなぎ、学校の組織としての力**を上手に引き出す。
- (2)学校と地域を結ぶ**コーディネート機能**の充実など**組織的な体制の構築**と、**関係者の努力と取組を引き出す工夫**を行う。

第2回 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会報告

10月16日に、今年度2回目となる河内宇都宮地区市町教育委員会連合会の定例会と研修会を開催しました。

定例会においては、去る9月30日に退任された宇都宮市教育委員会の大場文恵委員の後任である大森玲子委員の紹介と、同じく9月30日に退任された上三川町教育委員会の櫻井定一委員の後任である松枝健一委員の紹介を行いました。また、次年度の定期異動方針についての説明等も行いました。

研修会においては、栃木かぬま教育支援ネットワーク薬(ひこばえ)の代表理事である渡邊真知子さんを講師に迎え、「これからの教育支援の在り方について」という演題でお話を伺いました。渡邊さんは、鹿沼市内の小学校で長く学校支援ボランティアを務め、現在では鹿沼市全体での教育支援のためのNPO法人を設立し、精力的に活動をされています。講演では、渡邊さんの実際の取組について映像資料等を用いながら説明していただきとともに、その取組におけるボランティアの役割や考え方等について紹介していただきました。学校を支援するボランティア活動においては、教員の立場や考えに寄り添う柔軟性が必要であること、またボランティア活動に取り組むことで目指しているのは地域づくりであることなど、大変興味深い内容のお話を伺うことができました。

